第四回 ワーホリ・留学生応援企画
チアーズ×人材エージェント キイストンJAPAN

飲食の戦士たち

『飲食の戦士たち』は、飲食業界をリードする企業の社長の生い立ちから生き様、独立までの軌跡を紹介するシリーズ。企業理念とそれを掲げるに至った経緯、今後のビジョン、人材観などを紹介しています。飲食業界を志す方、もっと上のレベルで働きたい方、そしてこれから独立を志す方、必見です!

株式会社ディーアール
代表取締役
谷脇 宗氏

DR CO.,LTD

自ら率先し、事業拡大を図ってきた若き経営者が、組織作りに、本格着手。より強固な組織で、10年先を見据えた業態開発、売上拡大を目指していく。

生年月日:1978年6月25日生まれ。東京都品川区出身。
プロフィール:1986年に父親がラーメン店「道楽」を開業。両親共に働いていたため、幼い頃は2つ下の弟と 一緒に料理をつくることもあった。これが、飲食の原点。高校時代から父の店でアルバイトを始め、大学を4年で中退。正社員として入社し、3号店の店長を任 される。その後、食材卸のために2002年1月「(株)ディーアール」を設立し、社長に就任。独自業態の開発など事業拡大を図る。2009年12月現在、4業態11店舗に広がっている。
主な業態:「ラーメン道楽」、「ホルモンまるみち」など
企業HP:http://www.dr-t.co.jp/

■ラーメン店を開業した「働く父」を見て育ち、高校生の時から同店でアルバイトを開始

「スポーツ少年だった」と今回登場いただく(株)ディーアール代表取締役、谷脇宗氏は少年時代を振り返る。野球にサッカー。中学ではバレー部に所属。谷脇が8歳の頃、会社を経営していた父がラーメン店を開業する。店名は「道楽」。両親共に仕事に追われていたこともあって、弟と一緒に料理を作ることもあった。それが、「飲食」の原点になっている。高校に進学した谷脇氏は、クラブに入らず友だちと遊び回った。一方、父の店「ラーメン道楽」でアルバイト も開始。理由は、「時給が1200円と高かったから」。単純な発想だった。「店を継ぐことなどまるで考えていなかった」のも頷ける。

■受験失敗。「責任は自分で取れ」と父に言われ、予備校の費用をアルバイトで捻出

大学受験に失敗し、浪人すると決めた時に父に言われた。「お前がしたことだから、自分で責任を取れ」と。この一言が後に転機を生む。父からそう言われた谷脇氏は、予備校の費用などを稼ぐために、本格的に仕事に取り組み始めるのである。これが谷脇氏の人生の中で大きな転機となる。真剣に仕事に向き合 うと、小遣い稼ぎだった高校生の時とは明らかに違う充実感や達成感が味わえた。仕事が楽しくなり、これが自分の進む道とまで思うようになるのである。大学 には一浪の末に進学したが、やはり仕事が楽しく、将来の道も決まっているからと、4年で中退。株式会社「道楽」に就職する。

■3号店出店時に店長に抜擢され、徐々に経営にタッチし始める

長年、アルバイトをしていたことで、就職後もスムーズに仕事ができたはずだ。だが、アルバイトと正社員では周りの捉え方が変わったのではないか。「経営者の息子という色眼鏡で見られたこともあった」という。年齢も若い。舐められてたまるか、色眼鏡で見られてたまるか。負けず嫌いの谷脇氏は実力 で、外野の声をねじ伏せていく。3号店、出店時には店長に抜擢され、経営にも徐々に参加していくことになる。「いずれ、父から店を引き継ぐことになる。こ の店を大きくしよう」。仕事の合間を見つけては経営の本を読み、セミナーにも参加。経営の基礎を身に付け始める。そして26歳。食材卸のために立ち上げた (株)ディーアールで社長に就任。

■卸業から業態開発、店舗運営まで、事業拡大に取り組む

「ディーアール」。社名の由来を伺うと『道楽』の頭文字をとっただけ」とそっけない返事が返ってきた。しかし、一方で、「道楽」という名前 が、谷脇氏にとってどれだけ身近であるかを、このそっけない返事が物語っているように思えた。谷脇氏にとって「道楽」は苗字同様、谷脇家そのものを示す言葉 にほかならなかったのではないか。さて、「ディーアール」を起業した谷脇氏は当初の事業目的である食材の卸業に、飲食店経営を新たに加えていく。すでに4業態。たいへんだったのは、いずれの業態も谷脇氏自らが修行し、仕事を覚え、開発しなければならなかったことだ。谷脇氏は直営店舗同士でのメニューのコラボレーションを手がけ、完成したモツ火鍋 をオリジナルメニューとして打ち出している! だが、その分、通常のFCよりも開発力、現場力が求められるのも事実。ここでも谷脇氏は自ら先頭に立ち、研修を受け、店舗のオープン、運営までをリードしてきたのである。「金も出すが、口も出す」という経営者は多いが、谷脇氏のように、自ら率先して動く経営者は稀と いえるのではないだろうか。

■強固な組織作りの必要性を痛感。意欲ある人材を積極的に求めている

「10年先まで求められ続ける業態を作りたい」。谷脇氏のひとつの目標だ。一方、年間売上10億円という具体的な数値の目標も掲げる。現在、4業態11店舗。達成の時期は近い(09年12月現在で2期後には達成とのこと)。だが、そのためにはひとつクリアしなければいけないことがある。それが、谷脇氏を中心にした「強い組織」の創造である。「いままでは、ぼくが全部の店舗を見てきたが、そろそろ限界」と谷脇氏自身も、組織力強化の重要性を訴えている。「道楽」もそうだが、谷脇氏の店では、季節により味も少しずつ変えるようにしている。むろん食材は新鮮そのもの。仕入れルート確保のため、走り回ったこともある。こういう(株)ディーアールの姿勢を理解し、財産を活用できる組織と人物が、いまの谷脇氏には必要なのだ。そのためにいま、意欲ある人材を積極的に求めているところ。もちろん現段階でいえば谷脇氏も31歳と若い。だがこの若き経営者は、自らと同等の実力を持った意欲ある青年を迎え入れることで、 もう一皮向けようとしているのではないか。谷脇氏本人も、まだまだノビシロがある青年経営者であることに間違いはない。この青年の可能性に賭けてみるのも悪くない選択だ。

株式会社ディーアール谷脇社長の弟、谷脇享氏(外食事業部部長)も、オーストラリアでのワーキングホリデーの経験者です。
「ワーキングホリデーの経験は、コミュニケーション能力の向上にとても役立ちました!」

ワーホリ経験者の
独立・企業支援サイト
Glocal Style

ワーキングホリデーの経験を、帰国後に活かしたいなら!
Glocal Styleにまずはアクセス!
http://inshoku.info/glocal.style/

Glocal Styleはあなたの就職を全面的にバックアップします。

ワーホリが終わった後は、その経験を活かして働きたい、
日本とオーストラリアの架け橋になりたい…そんなお考えのあなたへ。
現在、数多くの飲食企業がアジアを中心に海外進出中であり、または模索中です。
私たち「キイストン」は飲食業界に特化した人材採用のリーディングカンパニー。
これまでに多くの飲食企業と、飲食業を志す方のマッチングを行ってきました。
現在も、常時300社以上の就職紹介を行っています。
あなたのオーストラリアで経験した味覚の違い、サービスの違い、嗜好の違いを是非日本の飲食業界に伝えてください。

■担当責任者:塩原修(コンサルタント)
Email:glocal.style@gmail.com
日本で人材コンサルタント業、オーストラリアでメディアおよび飲食事業に従事。現在はカナダに拠点を置き、日本の飲食企業およびオーストラリアの企業と様々な取り組みを行っている。ワーキングホリデーの就職事情に詳しく、帰国前からあなたの独立・起業の相談、および就職相談に乗り、日本への架け橋となります。

就職紹介企業 【設立】1992年10月22日 【資本金】9000万円
KEYSTONE 株式会社キイストン
http://www.keys.ne.jp/

運営サイト いんしょくハイパー
in-職 就職情報 http://in-shoku.info/
<(株)キイストン>

運営サイト いんしょく人材紹介
飲食人材紹介 http://inshoku.info/
<(株)ミストラル>

応援企業 チアーズ
CHEERS